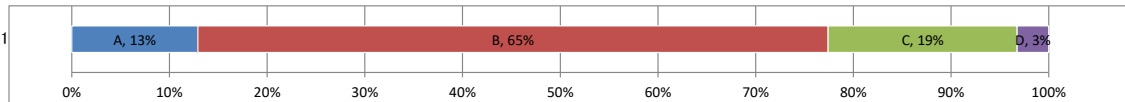


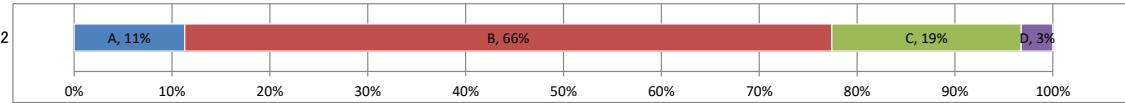
令和6年度 学校自己評価アンケート結果（職員）

A:大いにそう思う B:だいたいそう思う C:ふつう D:あまりそう思わない E:まったくそう思わない

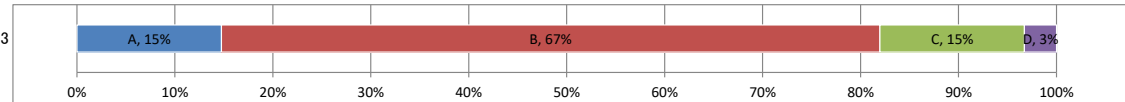
1 獲得している言語力と、もっている可能性から、個に応じた課題が設定され、適切な指導・支援をしていた。



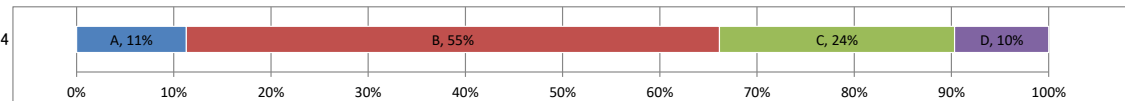
2 言語力や発信力につながる課題への手立て力を伸ばす指導・支援をしていた。



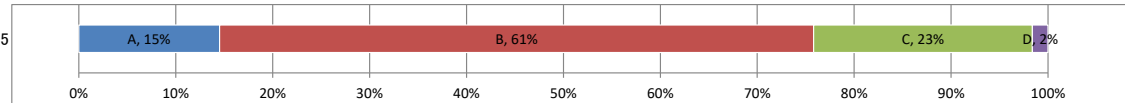
3 教材を工夫し、実態把握を基に分かる授業づくりをしていた。



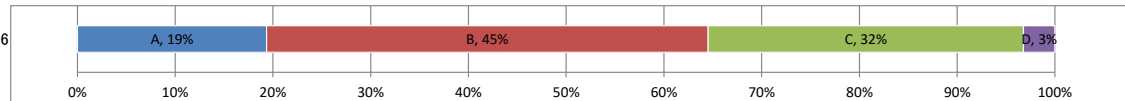
4 社会との関わりの中で自己決定できたり、問題解決できたりする力を育てる指導・支援をしていた。



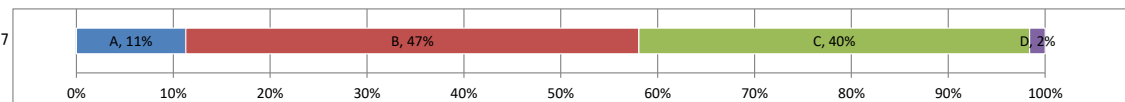
5 課題解決の目当てをもって学習に取り組み、思考力を高めていく指導・支援をしていた。



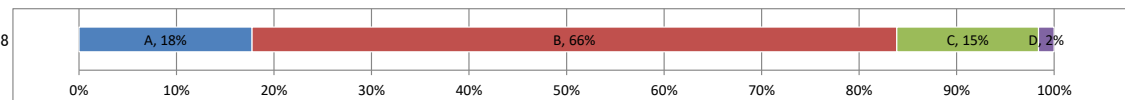
6 自身の障がいを理解しつつ、自己肯定感を高め、意欲や目標をもって周囲と関わっていくための指導・支援をしていた。



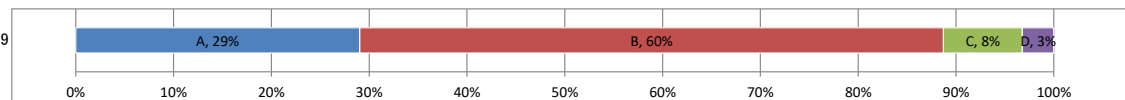
7 体力や運動機能の向上、健康や安全に関心をもち自ら実践する指導・支援を適切に行っていた。



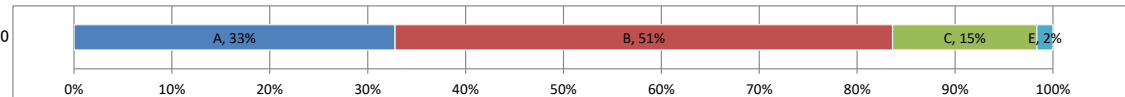
8 人権尊重、仲間や協力の意識向上のための指導・支援を適切に行っていた。



9 校内の個々のニーズに応じた相談や支援会議の設定、関連諸機関（福祉、医療などを含む）との連携などが適切に行われていた。



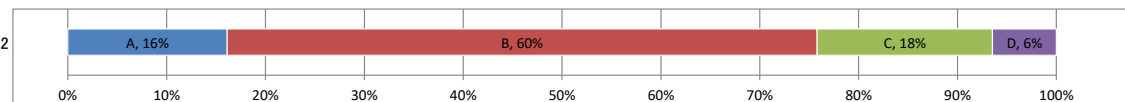
10 聴覚障がい教育の東北信拠点として、地域のニーズに応え、ろう学校への入学や就学、または、地域の学校への転校に向けての支援、相談などの活動が十分に行われていた。



11 課題意識をもって研修（自立活動、聴覚支援、教育研究、言語指導の実践的研究、子どもの発達論など）に取り組み、聴覚障がい教育の専門性を高めていた。



12 ICT機器を積極的に活用していた。



13 幼稚園から高等部までの一貫校のよさを生かし、各部職員が連携を図り、学校教育目標具現のために取り組んでいた。

